

高野山會議

K
O
Y
A
S
A
N
C
O
N
F
E
R
E
N
C
E
2023

先端アートデザイン分野
講演者(登壇順)



高野山大学副学長・教授
松長潤慶

1996年高野山大学文学研究科博士後期課程密教学専攻終了博士(密教学)。2015年高野山大学文学部密教学科准教授。2018年 高野山大学文学部密教学科教授。2021年高野山大学副学長(現在に至る)。専門は密教学、密教圖像学。



東京大学名誉教授・東京大学先端科学技術研究センターシニアリサーチフェロー 先端アートデザイン分野研究統括
神崎亮平

筑波大学大学院生物科学研究所博士課程修了。筑波大学生物科学系教授を経て、2004年より東京大学大学院情報理工学系研究科教授。2006年東京大学先端科学技術研究センター教授。同センター所長(2016-2022)。2023年より東京大学名誉教授、先端研シニアリサーチフェロー。ミラノ・ピコッカ大学名誉学位、和歌山県文化賞などを受賞。日本比較生理生化学会会長、JST次世代科学技術チャレンジプログラム推進委員長(2023-)、JST戦略的創造研究推進事業(さきがけ)「多感覚システム」研究総括(2021-)などを歴任。



東京大学先端科学技術研究センター特任准教授
伊藤志信

デザイナー。ミラノ工科大学特任教授、多摩美術大学客員教授、東京大学先端科学技術研究センター特任准教授。プロダクトから空間、先行開発まで多岐にわたるデザインを行い、数多くの作品を発表、またデザインコンサルタントを行っている。世界各地の数多くの展示会に参加、多くの媒体に作品が掲載されている。"Woman Made_great woman designers"掲載、IF design/独、ゴールドコンパス/伊、Reddot Award/独、等多くの国際デザイン賞を受賞。2019年の空間作品により「Mastro d'arte della pietra」の称号を授与される。



中川木工芸・比良工房主宰(木桶職人)
中川周士

1968年京都市生まれ、1992年京都精華大学美術学部立体造形卒業。父清司(重要無形文化財保持者2001年認定)に師事 木工の道に入る。2003年滋賀県大津市に自身の工房中川木工芸比良工房を開く。2012年伝統工芸ユニットGOONに参加。KI-OKEツールが、ピクトリア&アルパートミュージアム、パリ装飾美術館の永久コレクションになる(2016/2017)。2017年口エベクラフトプライズファイナリスト。2021年和文化グランプリ・グランプリ受賞。2022年創造する文化賞受賞。



学校法人高野山学園法人本部長
山口文章

京都府立大学大学院農学研究科林学専攻博士課程単位取得退学。総本山金剛峯寺職員、高野町教育長、高野山真言宗山長、高野山真言宗総長公室長、高野山開創1200年記念大法会事務局局長、高野山雲宝館長等を経て、現在、高野山報恩院住職、学校法人高野山学園法人本部長。主な著書に「新・高野百景」其の志〜参(教育評論社、2006-2010)がある。



声楽家、東京音楽大学教授、東京音楽大学付属高等学校長
小森輝彦

東京藝術大学、同大学院、文化庁オペラ研修所で学ぶ。文化庁在外研修員としてベルリンに留学。プラハ国立歌劇場「椿姫」ジェルモンで欧州デビュー後、アルテンブルク・ゲラ市立劇場専属歌手として12年活躍し、演じた役は70を超える。帰国後も流麗な歌唱と強い存在感で数多くの主役を務めている。「R.シュトラウス歌曲集」はレコード芸術誌で準特選盤。日本人初のドイッ宮廷歌手。東京音楽大学教授。東京音楽大学付属高等学校長。二期会会員。



学校法人高野山学園顧問、AADアドバイザー
乾龍仁

1952年生まれ。明治大学政治経済学部を卒業後、高野山大学文学部密教学科に編入し、同大学院修士課程を経て、博士課程を単位取得退学(1984.3)。密教文化研究所助手、講師を経て、同大学文学部密教学科の助教授、教授となり、文学研究科長、副学長、学長(2017.4~2021.3)を歴任する。現在、高野山大学名誉教授、高野山学園顧問。専門は密教学で、密教経典の「金剛頂経」や金剛界曼荼羅に関する論文が多い。



東京大学先端科学技術研究センター特任教授
伊藤節

筑波大学大学院芸術研究科修了。1995年ミラノにデザイン会社を設立。建築、インテリアからプロダクト、クラフトまで多岐にわたるデザインを手掛け、作品はミュンヘンとミラノの近代美術館に永久収蔵されている。ゴールドコンパス賞(2011伊)、Reddot Best of the Best 賞(2016独)、iF Design賞(2022独)、Good Design賞(2018、2022米)など多くの国際デザイン賞を受賞。ドムスアカデミー、ベネツィア大学、ミラノ工科大学特任教授、筑波大学芸術系教授、東京大学先端科学技術研究センター特任教授。



東京大学先端科学技術研究センター特任准教授
吉本英樹

東京大学工学部航空宇宙工学科、同修士課程修了。その後渡英し、2016年英国 Royal College of Art, Innovation Design Engineering 学科博士課程修了。2015年にロンドンで Tangent Design and Invention Ltd 創業。2020年より東京大学先端科学技術研究センター特任准教授。工学とデザインのハイブリッドな分野で活躍し、両分野で受賞多数。自身のスタジオ「TANGENT」では、多国籍なチームを率い、世界的な高級ブランドを顧客に、プロダクト開発から展示会ディレクションまで様々なデザインプロジェクトを手がける。2021年和歌山県文化奨励賞を受賞。



東京大学先端科学技術研究センター准教授
並木重宏

東京大学先端科学技術研究センター准教授。筑波大学で生物学の博士号を取得した後、米国ハーワードヒューズ医学研究所において動物飛行の研究に従事する。この間神経難病が進行して帰国、長期間の入院の後、車椅子を使って大学に復帰する。東京大学着任後はバリアフリー分野への関心から、インクルーシブデザインラボラトリーを立ち上げ、実験室のアクセシビリティに関わる研究に取り組んでいる。



東京大学先端科学技術研究センター教授
小泉秀樹

東大まちづくり研究室教授、東大まちづくり大学院コース長、日本都市計画学会専務理事。専門は、都市計画、まちづくり。研究成果をふまえて各地で都市計画、まちづくりの実践に取り組む。グッドデザイン賞など受賞多数。編著に「コミュニティデザイン学」(東大出版、2016)、「都市地域の持続可能性アセスメント」(学芸、2015)など。近年は、渋谷未来デザイン代表理事、アーバニスト理事長として共創まちづくりを推進している。



横浜みなとみらいホール館長、東京藝術大学客員教授、AADアドバイザー
新井鷗子

東京藝術大学音楽学部楽理科および作曲科卒業。NHK教育番組の構成で国際エミー賞入選。これまでに「題名のない音楽会」「東急ジルベスターコンサート」等の番組の構成を務める。東京藝術大学にてインクルーシブアーツ研究に携わり、一本指で弾ける楽器「だれでもピアノ®」を開発。著書に「おはなレクラシック」(アルテス・パブリッシング)、「音楽家ものがたり」(音楽之友社)等。「横浜音楽祭」総監督、横浜みなとみらいホール館長。



富士通株式会社 デザインセンター クリエイティブディレクター/チーフデザイナー
藤原和博

1995年東北工業大学工業意匠学科卒業。2022年より先端アート講座研究員。2001年より富士通株式会社で自社製品のプロダクトデザイン、ブランディングを行い、その後、クライアント企業向けの新規事業創出支援、VRコンテンツ開発、クラウドファンディングによるテストマーケティング、デザイン思考の社内浸透などを手掛ける。現在はどうしたらITテクノロジーがこの世界の調和に貢献できるのかを探索中。



ヴァイオリニスト、東京大学先端科学技術研究センター特任教授
近藤薫

東京藝術大学をアカンサ賞を受賞して卒業後、同大学院修士課程修了。東京フィルハーモニー交響楽団およびFuture Orchestra Classics コンサートマスター、バンクーバー・メトロポリタン・オーケストラ首席客演コンサートマスター、リヴァラン弦楽四重奏団主宰。東京大学先端科学技術研究センター先端アートデザイン分野特任教授。東京音楽大学、洗足音楽大学講師。JST「さきがけ」領域運営アドバイザー。東京フィル創設時のコンサートマスター近藤富雄は祖父で、三世に渡ってヴァイオリニスト。愛知県出身。



ミラノ大学准教授、AADアドバイザー
Rossella Menegazzo

ミラノ大学東洋美術史准教授、東京大学先端科学技術研究センターAADアドバイザー。ヴェネツィア、カ・フォスカリ大学で東洋学博士号取得。イタリアをはじめ諸外国の美術館で日本美術・写真・デザイン分野の展覧会をキュレーション、刊行物を執筆、数多くの国際シンポジウムを主催する。2018/2022年ミラノ大学にて日本美術デザイン国際シンポジウムを開催。主な著書は、IROとWA、ファイン社。2016年日本国内閣府クール・ジャパン・アンバサダー就任。2017年日本国外務大臣表彰受賞。



筑波大学名誉教授、札幌市立大学元理事長・学長、現名誉教授
蓮見孝

1948年鎌倉市生まれ。1971年東京教育大学卒。日産自動車(株)デザインセンター(1971~1991)、RCA(ロンドン)社留学。筑波大学(1991~2012)、札幌市立大学理事長・学長(2012~2018)。国立環境研究所で次世代EVの研究・開発(1995~2002)。「車椅子は未来ののりもの」とのインスピレーションを得る。病院の医療環境を改善するアート&デザイン活動を推進、NPOチアアート理事。ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインの研究・著書「ポスト「熱い社会」をめざすユニバーサルデザイン」他。ソーシャルデザインの観点から多様な地域プロジェクトを推進・著書「地域再生プロセス」他。



東京大学先端科学技術研究センター 小泉研究室D3
浦井亮太郎

近畿大学建築学部建築学科卒業、九州大学大学院人間環境学府都市共生デザイン専攻修士課程修了。現在、東京大学大学院工学系研究科先端工学専攻博士後期課程に在籍。大学4年生時、高野山を題材とした建築設計作品を制作し、高野町にて1ヶ月間展示。修士課程時に、高野山中学校にて教員との協働で「ふるさと学習」の実践・研究を始め、現在に至るまで4年間、学習指導員として次世代育成に携わっている。和歌山県橋本市出身。



株式会社JERA 代表取締役社長 CEO兼COO
奥田久栄

中部電力株式会社社側のキーパーソンとしてJERA設立における経営の枠組み作りに注力し、同社への火力発電事業の統合と統合後の新たなビジネスモデルの創出を主導した。同社の経営戦略・企画・調査・技術開発・広報等を担務し、世界のエネルギー市場に新しい価値を生み出す企業展開に従事。2023年4月から現職。



東京大学特任研究員
中上淳貴

東京大学大学院人文社会系研究科インド哲学仏教学研究室、ムーンショット型研究開発事業(MS9) 特任研究員。専門は、仏教学、文化人類学。自然と文化のインターフェイスについて、現代思想、死生学、仏教学から翻訳論、瞑想論、芸能論に至るまで幅広い視点から探求している。仕舞と謡を故野村幻雪師より学ぶ。